

Soccer News Shiga

2024.12.25

発行 (公社) 滋賀県サッカー協会
責任者 吉田 和弘
〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地
TEL:077-585-0982/FAX:077-585-0983
e-mail:shigafa@oregano.ocn.ne.jp
http://www.shigafa.com
印刷:スペース工房

2024年の振り返りと2025年への期待

..... 滋賀県サッカー協会会長 前田 康一

滋賀県サッカー関係者皆様の本協会の活動に対するご理解とご協力により、おかげをもちまして2024年の事業も無事終えようとしております。誠にありがとうございました。

さて、2024年を振り返りますと、今年は新年早々、全国高等学校サッカー選手権大会での近江高等学校の準優勝から始まりました。決勝戦では国立競技場で、5万人を超える観客の大声援の中、素晴らしいパフォーマンスを披露してくれ、滋賀県民に大きな夢と希望を与えてくれるとともに新たな歴史を作ってくれました。以降、各種別のチームがそれぞれの全国大会に出場し健闘してくれましたが、全国の壁は厚く、初戦敗退などの残念な結果となりました。各種別の全国大会出場チームの来年度のリベンジに期待いたします。

一方、滋賀県出身選手や滋賀県所属の指導者が国際舞台で活躍してくれました。甲賀市の土山スポーツ少年団出身の「山田 楓喜」選手(東京ヴェルディ所属)はU23日本代表選手として、パリオリンピックのアジア予選及び本大会に出場し活躍してくれました。また、「狩野倫久」氏(サガフFC所属)は、U20日本女子代表監督として、アジア大会優勝、ワールドカップ準優勝という素晴らしい結果を出してくれました。滋賀県のサッカー関係者として、お二人の活躍を大いに讃えたいと思います。

また、10月19日～23日の5日間、国スポのリハーサル大会として「第60回全国社会人サッカー選手権大会を」を国スポの会場地である4市7会場で開催しました。大会には全国から32チームが参加し熱戦が繰り広げられました。この大会は関係自治体や多くの県内のサッカー関係者の方々のご尽力により無事終了できましたが、改めて、この規模の大会運営の準備や運営の難しさが認識でき、来年の本大会に向け有意義なリハーサルになったと思います。運営にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

来年はいよいよ本県において「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」が開催されます。5月24日・25日に障スポのリハーサル大会、10月3日～7日に国スポサッカー競技、10月25日～27日に障スポサッカー競技の開催が予定されています。

滋賀県サッカー協会は、SFAビジョンの中に2025年の到達目標として、「国スポのサッカー競技で総合優勝を勝ち取る」ことを掲げています。ぜひ、滋賀県の代表選手には力を十分に発揮していただき、目標を達成してくれることを期待します。大会運営に携わっていただく多くのサッカー関係者の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、この国スポ・障スポが歴史に残る素晴らしい大会になることを期待いたします。

第60回全国社会人サッカー選手権大会を終えて

..... 守山侍2000 代表 井上 卓哉

2024年10月に滋賀県で開催となった第60回全国社会人サッカー選手権全国大会に、関西代表として2年連続の全国大会出場となりました。

今大会、全国大会の開催地が地元滋賀県という事もあり、多くの方々から激励の言葉を頂き試合会場でご声援頂きました事、改めて御礼を申し上げます。

昨年度、1回戦敗退の悔しさと滋賀県で我々の活躍を見て頂きたいという想いで、今大会の関西予選を勝ち抜き2年連続の全国大会出場は果たせました。



正直、チーム全員が意気込んで挑んだ今大会でありましたが、一回戦で東北代表のコバルトレー女川に0-1で敗れ、昨年同様1回戦での敗退となりました。

昨年はチームとして良い経験になったと感じた部分が大きかったのですが、今大会は自分自身悔しさが強く残った大会になり、全国のレベルで勝つ為に足りていない部分や積み上げていく事など、次に向けてプラスになるように日々の活動を通して更に努力して参ります。

今後ともよろしくお願い致します。

第60回全国社会人サッカー選手権大会を終えて

..... レイジェンド滋賀FC 代表 山内 義博

2024年10月に国スポリハーサル大会として開催された「第60回全国社会人選手権サッカー大会」、クラブとしては久々に参加させていただきありがとうございました。

ここ数年はリーグ戦で下位となり関西大会への出場も果たせなく、昨年はリーグ2位となりましたが、関西大会で格下に敗れ出場を逃しました。

今年は滋賀県開催ということもあり地元滋賀で開催できる喜びを含め出場させてもらい感謝しております。

本戦1回戦の5日前にはビッグレイク会場でのJリーグとの対戦（vs.京都サンガ戦）では、1,500人の観客に包まれ全国社会人選手権大会前の良いシュミレーションとして多くの歓声に包まれながら良いムードで本戦へ行けたことも感謝しております。

1回戦では、関東代表のエリース東京に前後半通じて得点のチャンスが幾度とありましたが、なかなか決めきれず相手のFK1本にて0-1で敗れ1回戦敗退となりました。

今大会においてはグラウンドの整備、準備等、大会関係者役員ならびに行政の方々にも大いにご協力していただき誠にありがとうございました。

これからもよろしくお願いします。



悔しさを乗り越えて掴んだ全国大会

..... 草津東高等学校サッカー部 監督 牛場 哲郎

3年ぶり13回目の第103回全国高校サッカー選手権大会出場が決まり、まずはチーム全員で喜びを分かち合いました。

今回の滋賀県予選では、選手一人ひとりが高い集中力を発揮し、最後まで諦めない姿勢を見せてくれました。IH予選ではベスト8で敗戦したため、全国大会への最後のチャンスでした。チーム全員が一丸となり、勝利をつかみ取ることができたことは大きな成長と手応えを感じる場面でした。

全国の舞台では、滋賀県代表としての誇りを持ち全力で戦いたと思います。これまでの経験を糧にさらに成長するチャンスだと捉えています。

全国大会はどの試合も厳しい戦いが予想されますが、滋賀県予選で培ったチームワークと粘り強さを武器に、最後まで戦い抜く覚悟です。

普段から応援やサポートをしてくださった方々の期待に応えられるよう、そしてサッカー部の先輩方が築いてきた伝統を引き継ぎ、新たな歴史を刻むために、全力で全国大会に挑みます。

応援、よろしくお願いいたします。



初の全国大会出場に向けて

.....

近江兄弟社高校女子サッカー部 監督 山岡 玲央

近江兄弟社高校女子サッカー部に関わる皆様、平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。皆様のご支援のおかげで、全国大会に出場することが決まりました。昨年、各県一校の全国大会出場が決まり、そこからチームの目標が「全国大会初出場・初勝利」という明確なものとなりました。

今年のチームは「ポゼッションサッカーで全国に通用すること・勝利すること」を目指し、活動してきました。そして、平日練習や色々なチームと練習試合を重ね、試合の中で日々の練習の成果を発揮することができるようになりました。

自分たちが今まで取り組んできたことを信じて、後悔することなく戦い抜きたいと思います。

最後に、本校女子サッカー部に関わる全ての皆様へ

の感謝の気持ちを忘れずに、挑戦者として「全国大会初出場・初勝利」の目標を叶えられるように頑張りたいと思います。

そして、滋賀県のチームが全国に通用することを証明していきたいと思います。



JFAバーモントカップ第34回全日本U-12フットサル選手権大会を終えて

.....

アミティエスポーツクラブ草津 監督 木村 鷹汰

8月16日～8月18日に開催されたJFAバーモントカップ第34回全日本U-12フットサル選手権大会に2年連続滋賀県代表として参加することができました。

1次ラウンドではグループKに入りました。全国大会の独特な雰囲気の中、初戦の埼玉県代表戸塚FCジュニア戦では初めての全国大会とは思えない素晴らしい試合ができ4-2で勝利できました。続いて秋田県代表ブラウブリッツ秋田U-12戦も8-2で勝利を収め、第3戦の鹿児島県代表のFCアンジョイ戦は4-4の引き分けで1次ラウンドを勝ち点7の1位で決勝ラウンドに進むことができました。ラウンド16では、石川県代表泉クラブU-12と戦い1-2で敗戦となり2年連続全国ベスト16という結果で大会を終えました。

サッカーチームでありながらフットサル大会を初出場から2年連続優勝して2年連続全国大会ベスト16



という結果を出してくれた選手たちは、クラブにとってまた新しい歴史を作ってくれました。また普段とは違う環境やルールの中、この経験ができたことは選手たちにとってこれからの自信に繋がったと思います。

今回の経験を活かして12月末に行われる全日本U-12サッカー選手権大会決勝大会でも、滋賀県に新たな歴史を刻めるように精進していきたいと思います。来年度もまたこの舞台に選手たちと立てるように「No,Fun No,Football」「常昇・常勝・常笑」をモットーに世界に通用する選手の育成を目的として成長していきたいと思います。

最後に今回の全国大会出場に際して、多くのご支援とご協力を賜りました滋賀県サッカー協会をはじめとする多くの皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

『JFA第12回全日本O-40サッカー大会』に出場して

.....

SR2008 監督 藤井 衛

2024年度シニア全国大会(全国16チーム枠)に関西第1代表として出場しました。滋賀勢として40代の全国大会は開催枠出場以降としては初めてとなりました。

本大会に於いては結果グループリーグ3位 戦績1分2敗、決勝トーナメントへ進出できませんでした。強豪関西予選を1位突破でき、自信を持って全国大会チャレンジしましたが結果は残せず、次への課題を与えてもらいました。今後も全国シニア大会の常連チームになれるよう努力していきます。

SR2008は創部17年目を迎え競技サッカー中心にシニア各年代40代50代60代 在籍者総75名にて選手登録し活動しております。やるからにはハイレベルで戦

いたいと積極的に県内外チームとの交流戦に参加し、日々切磋琢磨しております。チームの目標としては まず『サッカーができる環境に感謝』し、『公私共に関わる全ての方をリスペクト』し、『生涯現役でサッカーができるよう』精進していきます。



U-20日本女子代表 ～ FIFA U-20女子ワールドカップ2024コロンビア ～

U-20日本女子代表監督 狩野 倫久
SAGAWA SHIGA FOOTBALL ACADEMY ディレクター

U-20日本女子代表は、コロンビアのボゴタ、メデジン、カリにて開催されましたFIFA U-20女子ワールドカップ2024コロンビアへ参加しました。2023年3月にU-19日本女子代表候補としてチームを立ち上げ、アジア予選含めTotal：49名を選手招集し、8回の活動を経て、21名（FP：18名、GK：3名）を招集しました。

U-20日本女子代表は、大会の新たなチャレンジャーとしてグループステージ初戦から「一戦、一戦、目の前の試合に全力で挑む」、泥臭く、粘り強く、タフに闘い1点を取りにいき、勝ち抜いていく、ファイナリスト、そして頂点へ！をチームの合言葉に、日常での取り組み、今まで代表での積み上げをベースに、アグレッシブで失敗を恐れず果敢にチャレンジし続けようと挑みました。

大会のメイン会場（ボゴタ）が標高2,600mと高地であるためコンディション面において、高地順化が必要でした。フィジカル部門とメディカル部門、その他関連団体、関連機関の専門分野の知見により議論を重ね、コロンビア・ボゴタでの環境適応含め事前キャンプとして初戦の13日前（約2週間前）に現地コロンビア・ボゴタに入りました。

トレーニング・栄養：食事、休養：睡眠のサイクルにおいて、高地順化は個人差が大きいと個別にモニタリングし、オーバートレーニングにならないよう身体的負荷に注意し徐々に進めながら大会へ入っていきましました。今回のコロンビアでの環境適応において、活動したすべての期間において、常に元気にトレーニングや試合などの活動ができたこと、感染対策や衛生管理、体水分量を含む体重減少の防止、メンタルサポート等、準備し取り組んでいただいたフィジカル・メディカルスタッフの素晴らしい成果によるものだと感じます。

2023年3月にU-19女子代表チーム立ち上げ、当初より「個々のストロングポイントを磨き、世界で通用する個を育て、それらを最大限に活かし、そこで勝負しながらチームのためにプレーする。そしてチームを強くすること」、そして「自分で考え行動（自発的で積極的なアクション）すること」に、オン・ザ・ピッチ、オフ・ザ・ピッチ共に個人・チームの目標に向け主体的に取り組んでできました。

そして、チーム・選手においては、今回FIFA

U-20女子ワールドカップ2024コロンビアで大会を戦う中で、タフで厳しい試合を重ねることでチームとして洗練され、選手が大きく変化し成長していく姿がありました。



©2024FIFA

なでしこJAPAN世界一奪還に向け、U-20年代の選手たちをなでしこJAPANへ繋げ、後押し底上げを図り、強いなでしこJAPANをつくっていくためにも、この年代の活動、特に国際大会であるAFC U20アジアカップ、FIFA U-20女子ワールドカップは重要であり、U-20年代以下、アンダーカテゴリー含め幅広い強化・育成は必要不可欠だと改めて強く感じました。

FIFA U-20女子ワールドカップ2024コロンビア大会で世界との闘いから、今回の日本チームにおいて「状況に応じたテクニックと判断力、連続した攻守の関わり、そしてハードワーク」は多くの試合で良さを発揮し、日本の武器として世界で通用する部分だと強く感じ、またそれらを決勝のDPR.Kの試合のような、さらに強度が高く目まぐるしく状況が変化するの試合の中、つまり“ハイプレッシャー、ハイインテンシティ下での状況の変化に対応する確かな判断力。その判断力をベースにした質と精度を伴う高い技術力の発揮。”をさらにレベルアップさせ追求していくこと、そしてフィジカルフィットネスにおいては、俊敏性を武器に連続した攻防ができるためのパワー発揮、それらをタフな試合でも連続しハードワークし続けられる高強度持久力の向上は、日本の女子におけるJapan's Wayの具現化に向け、重要なポイントであると感じました。

最後に、今回決勝DPR.K戦では悔しい敗戦となり準優勝という結果で大会の幕を閉じました。

関係者の皆様、我々の活動を盛り上げ、そしてお声かけいただき、いつも応援していただいたことに感謝しております。それらを滋賀県のサッカーにおける指導の現場や指導者養成等、滋賀県の強化・育成、発展に寄与できるよう尽力いたします。本当にありがとうございます。

【大会結果】

GS第1戦 9月3日
日本女子代表 (7-0) ニュージーランド

GS第2戦 9月6日
日本女子代表 (4-1) ガーナ

GS第3戦 9月9日
日本女子代表 (2-0) オーストラリア

ラウンド16 9月13日
日本女子代表 (2-1) ナイジェリア

準々決勝 9月16日
日本女子代表 (1-0) スペイン

準決勝 9月19日
日本女子代表 (2-0) オランダ

決勝 9月23日
日本女子代表 (0-1) DPR.KOREA

準優勝 6勝1敗：総得点18点/総失点3点



©2024FIFA